2020 年度第 4 回・2021 年度第 1 回合同評議員会　議事概要

日時：2021 年 4 月 3 日（土）　15：30−18：30
場所：一般社団法人日本結晶学会事務局
出席者※：Zoom 会議
井上 豪[a,b]，植草 秀裕[a]，海野 昌喜[a,b]，大原 高志[a]，岡崎 伸生[b]（情報幹事），尾関 智二[a,b]，熊坂崇[a,b]，栗栖 源嗣[a,b]，小島 優子[b]，小松 一生（会計幹事）,坂田 修身[a]，佐藤 衛[a]，清水 敏之[b]，菅原 洋子（監査役），杉山 和正[a,b]，関根 あき子[b]，千田 俊哉[b]，千田 美紀[a,b]，玉田 太郎[a,b]，藤間 祥子[a,b]，中川 敦史[a]，西堀 英治[a,b]，禾 晃和[a]（庶務幹事），橋本 博[a,b]，樋口 芳樹[b]，三木 邦夫[a,b]，宮原 郁子[b]，森 茂生（広報幹事），森吉 千佳子[a,b]（男女共同参画推進幹事），姚 閔[a,b]，山縣 ゆり子[a,b]（会長），山口 宏[a]，山本 雅貴[a,b]，和田 啓[a,b]
委任状出席者：足立 伸一[a,b]，神山 崇（監査役）[a,b]，平田 邦生[a,b]，松村 浩由[a,b]，吉朝 朗[a,b]
欠席者：上村 みどり[a,b]，橋爪 大輔（行事幹事）
議長：山縣 ゆり子（2020・2021 年度会長）
議事録作成者：禾 晃和
※2020 年度第 4 回評議員会（定数 30，構成員は[a]で表記）：出席 24，委任状出席 5，欠席 1
　2021 年度第 1 回評議員会（定数 30，構成員は[b]で表記）：出席 24，委任状出席 5，欠席 1
（五十音順）

上記のとおり定足数に足る評議員の出席があったので，議長は定刻に開会を宣した．2022-2023 年度会長および 2021-2022 年度評議員が紹介された後，下記のとおり議事に入った．また，議事録署名人として禾評議員が選出された．

議事

報告事項

1　幹事報告

1.1庶務幹事報告（禾庶務幹事）

2020 年 11 月 10 日から 2021 年 3 月 26 日までの会員の異動状況が報告された．2021 年 3 月 26 日現在，会員数が 1,087（個人会員 1,069 名，賛助会員 18 社）である．学会共催等依頼について，協賛依頼 5 件，共催依頼 1 件が報告された．

~~次期（2022～2023 年度）会長候補者推薦投票および 2021～2022 年度評議員候補者推薦投票の開票結果が報告された.~~

1.2会計幹事報告（小松会計幹事）

一般社団法人としての 2020 年度決算（2020 年 2 月 1 日～2021 年 1 月 31 日）が報告され、監査報告書も同時に提示された（別表参照）．単年度収支として，1,386,954 円の黒字となったことが報告された．会員減による会費収入の減少傾向が続き，メダル作成のために顕彰費の支出があった一方で，コロナ禍の影響で会議がオンラインで開催され，会議費が大幅に抑えられたことが全体の収支の改善に大きく影響していることが報告された．歳入面では，70 周年記念大会としてつくばで開催された年会の収支が 1,261,361 円の黒字であったこと，歳出面では，

業務委託費を 373,989 円抑制することができたことも黒字の要因であることが報告された．リガクファンド口に関しては，IUCr2020 の延期と対称性講座の中止により，支出が大きく抑えられたことが報告された． 2021 年度に関しては，リガクファンド口から，ハイブリッド開催される IUCr2021 への参加費援助を行うことが説明された．

1.3編集幹事報告（植草編集幹事）

12 月末発刊の学会誌 2020 年 4 号および 2 月末発刊の 2021 年 1 号の内容について報告されるとともに，今後の学会誌の記事掲載予定が示された．情報幹事との連携で，学会誌英語ページが開設されたことが報告されるとともに，海外執筆者に対する執筆要項や著作権許諾書類の作成の必要があることが報告された．日本結晶学会誌の英語名が「Nihon Kessho Gakkaishi」であることが説明された．

1.4行事幹事報告（禾庶務幹事代読）

第 9 回対称性・群論トレーニングコース(2021 年 3 月 1 日～5 日)が中止されたことが報告された．

本年度年会(2020 年 11 月 19 日～21 日，北海道大学を拠点とするハイブリッド開催)の概要が報告された．特別企画シンポジウムは開催せず，口頭発表とポスター発表を初日と 3 日目にオンライン開催し，2 日目に総会，受賞講演, 70 周年記念シンポジウムをオンラインと対面のハイブリッドで開催する方針が示された．

栗栖 70 周年記念シンポジウム実行委員会委員長から，実行委員が紹介されるとともに，再延期はせず本年度年会に合わせてハイブリッドで開催する方針が示された．

2022 年度年会(2022 年 11 月 26 日～27 日，関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス)の準備状況が実行委員会委員長の山口評議員から報告され，日程と会場については変更の可能性があることが説明された．

1.5情報幹事報告（岡崎広報幹事）

学会 Web ページでの記事掲載状況と各ページのアクセス状況が報告されるとともに,協賛会員の情報の掲載方法を検討することが説明された．

1.6広報幹事報告（禾庶務幹事代読）

定期配信メールの配信状況が報告されるとともに, IUCr News Letter での学会賞や若手の会に関する記事掲載について報告された．

1.7男女共同参画推進幹事報告（森吉男女共同参画推進幹事）

男女共同参画学協会連絡会の運営委員会への参加状況について報告された．加盟学協会活動調査として，総会員数を報告したことが説明された．

2　AsCA 関係

西堀 AsCA 評議員から，マレーシアで開催予定だった AsCA2021 が 2024 年に延期されることになったことが報告された．

3　日本学術会議・IUCr 関連

日本学術会議 IUCr 分科会の菅原幹事より，プラハで開催予定だった IUCr が 2021 年にオンラインと対面のハイブリッドで開催されることが報告され，参加登録のスケジュール等について説明された．

4　日本学術会議・結晶学分科会関連

結晶学分科会の菅原委員長より，つくば年会のサテライトミーティングとして開催された公開 WEB シンポジウムの参加者数等の報告がなされるともに，開催記録の作成についても説明された．第 25 期日本学術会議の~~新規~~会員任命に関する問題についての状況説明が行われた．

5　会員確保のためのワーキンググループの活動

ワーキンググループの菅原委員長から，他学会との比較から本会の会員数の減少状況の分析結果が説明された．会員数確保のための取り組みとして，若手の会の活動を拡張した夏の学校やワークショップ等を開催することが提案された．

6　若手会員の創設の準備状況

小松会計幹事より，若手会員の会費，対象，資格等について説明された．定款や規程を改定することなく，正会員の資格のままで若手資格として運用する可能性や若手資格取得後の継続期間の設定などについて議論が行われた．

7　その他

山縣会長から，研究機関への若手支援の要望書の提出に関して，SPring-8 における対応状況について報告され，坂田評議員から理研/JASRI における取り組みについて補足説明が行われた．

審議事項

1.　会員異動

2020 年度第 3 回評議員会以降の新規入会者の紹介，入会申込書類の回覧があり，全員の入会が満場一致で承認された．

2.　共催・協賛・後援

別紙記載の協賛依頼 5 件，共催依頼 1 件が満場一致で承認された．

3.　2020 年度決算

2020 年度決算が満場一致で承認された．

4.　2021 年度年会の開催形式について

70 周年記念シンポジウムを含め、会期を 2.5 日間（3 日目は午前のみ）とすること，2 日目の総会，受賞講演，70 周年記念シポジウムはハイブリッド開催，初日と 3 日目の年会プログラムはオンライン開催とすること，年会の特別企画シンポジウムは開催しないことが満場一致で承認された．姚年会実行委員長から，ハイブリッド開催に伴い学会からの従前以上のサポートの要望が表明された．開催費用が確定した後に，7 月の第 2 回評議員会で学会会計からのサポートについて議論する方針となった．

5.　その他

禾庶務幹事から，会長および評議員の選挙を郵便投票で行う場合の問題点と電子投票に移行した場合に発生する費用について説明が行われた．議論の結果，来年度での導入に向けて，継続的に議論する方針が示された．

2021 年度学会賞推薦に関して，申請資格や締め切り等について周知された．

次回幹事会（2021 年度第 2 回幹事会）・評議員会（2021 年度第 2 回評議員会）の日程と会場に

ついて，下記の開催案が提案され，承認された．

日時：2021 年 7 月 3 日（土）

2021 年度第 2 回幹事会 12:00 – 14:00

2021 年度第 2 回評議員会 15:00 – 18:00

場所：Zoom によるリモート開催

以上